2016年度点検・評価シート

Ⅰ　評価項目・担当部局

対象部局	東洋研究所
評価基準7	教育研究等環境
点検・評価項目(4)	7-4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
	研究所の運営体制の適切性
	研究会、セミナー、シンポジュウム等の開催および学術雑誌の刊行状況
点検・評価項目(6)	7-6 教育研究等環境の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ【点検・評価項目ごとの現状説明】

7-4	・研究班10班が構成されている。(資料：研究班一覧) ・毎年秋に、3名の研究員を講師とした公開講座を、3回開催している。(大東文化大学東洋研究所所報№63、64) ・年に4冊、学術雑誌『東洋研究』を刊行し、各研究員からの投稿を受け、1冊平均5本、年約20本の論文を発表している。(大東文化大学東洋研究所所報№63、64) ・各研究班の活動成果として2015年度は、『西安事件と中国共産党』、『藝文類聚訓讀付索引巻八十九』、『インディア領の成立とポルトガル人の定住』、『天文要録の考察［二］』、『茶譜巻八』、『天心と東西文化の融合』の6冊の学術図書を刊行している。(大東文化大学東洋研究所所報№63、64) ・上記の活動を行うに際して、研究室、研究費、図書費が適切に整備されている。
7-6	・東洋研究所管理委員会において、研究班設置・更新の際に新規研究内容、新規研究員の検証を定期的に行っている。(大東文化大学東洋研究所所報№63、64) ・『東洋研究』の刊行は、専任研究員がその編集に当たり、各号の編集を行っている。

【効果が上がっている事項】

7-4	
7-6	

【改善すべき事項】

7-4	・『東洋研究』への論文投稿・編修および各研究班の活動成果としての刊行物の出版を潤滑に行うため、刊行物に関する内規をより詳細に改正する必要がある。 ・研究所所蔵図書資料のデータベースの利便性を高め、学内・学外からのアクセスを可能にする。
7-6	

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

B7-27 大東文化大学ホームページ（自己点検・評価活動）
http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html
B7-30 大学データ集 ≪既出≫B1-22

＜大学基礎データ＞
d1-表2　全学の教員組織

〔追加資料〕

Ⅲ　【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」　「A：概ね達成」　「B：やや不十分」　「C：不十分」　で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標(2014～2018)	7-4 ・研究班の再編と新設を図る。	・研究班の適切な再構築が行われている。	→			A		
	7-4・外国人研究者の参加を求め、「東洋研究」への論文の掲載を行う。	・外国人研究者による「東洋研究」への論文の掲載。	→			A		
14年度目標	7-4 ・外国人研究者の参加を求める。 ・新規研究班の新設を図る。	・新規研究班の研究課題と人員の計画が立てられている。	→	A				

15 年度目標	7-4・『東洋研究』への論文投稿・編修および各研究班の活動成果としての刊行物の出版を潤滑に行うため、刊行物に関する内規をより詳細に改正する。	・『東洋研究』への論文投稿・編修および刊行物に関する内規の改正。	→		A			
	7-4・研究所所蔵図書資料のデータベース再構築の方法の決定と準備。	・データベース再構築に伴う予算の計上。	→		A			
	2-2・外国人研究者の参加を求め、「東洋研究」への英文論文の掲載を行う。	・外国人研究者の参加、および「東洋研究」への論文の掲載。	→		A			
16 年度目標	7-4・『東洋研究』への論文投稿・編修に関する内規を改定する。	・『東洋研究』への論文投稿・編修に関する内規の改定。	→			S		
	7-4・研究所所蔵図書資料のデータベース再構築。	・データベース再構築の進行。	→			S		
	2-2・外国人研究者の参加を求め、「東洋研究」への論文の掲載を行う。	・外国人研究者の参加、および「東洋研究」への論文の掲載。	→			C		